

遺伝子組み換え作物：研究・安全性評価・規制

遺伝子組み換え作物はいかにして商品化されるか？

遺伝子組み換え作物は平均



の歳月と

1億3000万ドル



の研究開発経費をかけて

商品化されます

政府による承認のプロセスだけで5~7年かかります

レギュラトリーサイエンス

75以上の試験¹が行われ、新しい遺伝子組み換え作物の安全性を実証します。



栽培上の問題がないこと

- 組み換え作物が同じ系統の非組み換え作物と同様に生育すること
- 組み換え作物が意図された性質をもっていること（害虫抵抗性など）



環境や有用昆虫に安全であること



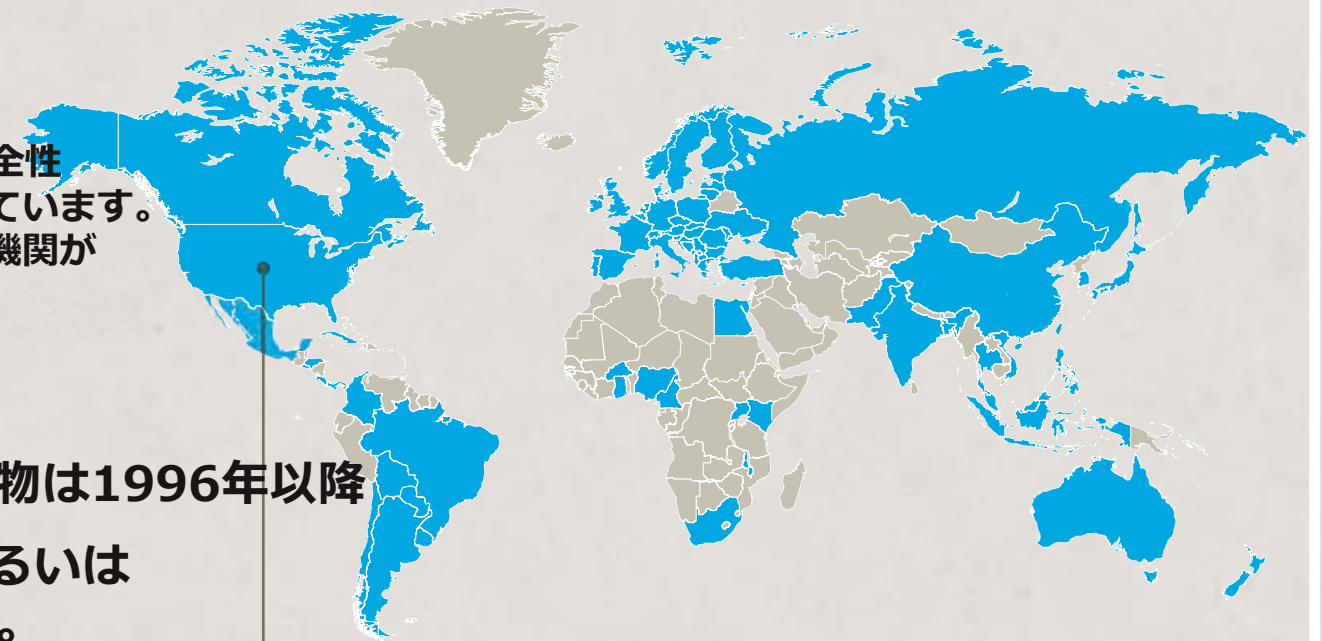
食品として安全であること

- 非組み換え作物と同じ栄養素をもっていること
- 新たなアレルギーをもっていないこと



安全性評価

世界で90以上の政府²で遺伝子組み換え作物の安全性評価が行われ、承認されています。多くの国では複数の政府機関が遺伝子組み換え作物の規制に関与しています。



遺伝子組み換え作物は1996年以降

70カ国³で栽培あるいは輸入されています。

米国における安全性評価は以下の機関で行われます



(農務省)
栽培上問題ないか
チェック



(環境保護庁)
環境に対し安全であるか
チェック



(食品医薬品庁)
食品として安全であるか
チェック



¹近年みられる遺伝子組み換え技術の様々な用途における諸研究に基づきデュポン・パイオニア社が推定した数値 | ²遺伝子組み換え技術の新規用途についての審査を行う世界62カ国およびEU加盟国28カ国の諸機関を含む | ³出典：国際アグリバイオ事業団 (ISAAA.org) より詳しい情報は www.GMOAnswers.com